

写真と色彩で記憶を

横江孝治展 情景浮かぶ34点 高知市

高知市の画家、横江孝治の個展が高知市薊野北町1丁目の沢田マンション内ギャラリー「room38」で開かれている。写真を加工し、色彩を加えたミクストメディアなど34点を紹介している。8月4日まで。

1981年吾川郡いのた作品を制作し続ける横

写真と絵画を融合させ



「記憶は個人個人の財産。どこかぼやけているけど大切な存在として表現した」と語る横江孝治(高知市の「room38」)

江。インクジェットで刷った写真画像をエタノールを用いてにじませ、その上に染料インクやアクリル絵の具で着色、夢で見るとような不思議な情景を浮かび上がらせる。

今回は「記憶をテーマにした」と語る。

素材とした写真は、最近撮ったものから50年以上前のプリントまでさまざま。画像は加工されているので、いつの写真なのか見る側は曖昧に感じるが、記憶とは本来、曖昧糊でぼんやりしているものだとも思い知らされる。

生まれ育つた町の街並み、昔遊びに行った広場、学校の美術室、家族写真を撮った自宅前……。どれも横江にとって身近な風景であり、個人的な記憶の一角だ。見る側の記憶とも呼応するだろう、作品を見て、どこか懐かしさを覚えるのはそのせいかもしれない。

(西森征司)